

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム おからぎ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300043		
法人名	社会福祉法人つつ星会		
事業所名	グループホーム おからぎ		
所在地	〒028-6105 岩手県二戸市堀野大字大川原毛89-12		
自己評価作成日	令和5年11月27日	評価結果市町村受理日	令和6年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅と同様に生活の場としてゆったりとした雰囲気の中で、自分らしい生活リズムに沿った過ごし方が出来ること。生活の中に自分なりの日課や役割を持っていただくことで、生活にメリハリを持たせ何気ない日常の幸せな日々を、季節を感じながら豊かで穏やかに送れるように支援を心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は県立二戸病院に隣接し、法人では事業所の近くで、デイサービス事業所、特別養護老人ホーム等の複数の高齢者介護事業を展開している。また、消防署、高等看護学院も近く、協力や支援が得やすい環境にある。近所には、スーパー、商店もあり食材購入、買い物に利便性が高い地区にある。「パーソン・センタード・ケア」、「自立支援介護」を法人経営方針に取り入れ、経営理念の実現に向けたケアを実践している。コロナ禍や感染症等の推移を見ながら、家族の面会や、外出、外泊などを再開している。日常のケアを通じて一人一人の思いや要望の把握に努め、食事やおやつなどに反映させている。また、職員のアイデアで季節ごとに、湯舟に花や果物、野菜などを浮かべる入浴時の工夫など、入居者の満足向上に努めている姿勢が窺われる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修時や、毎年法人内で理事長による理念の研修を行っている。当事業所では、玄関とホール内に理念を掲示し、意識継続に努めている。	理事長による法人経営理念、経営方針の勉強会のほか、認知症ケアの考え方の一つである「パーソン・センタード・ケア」の考え方を毎月の研修に取り入れ、毎年度の目標を設定し、経営理念実現の近道として取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のお店で食材を購入したり、出前やケーキの注文を依頼している。又、市内の専門店から、牛乳等の乳製品の配達をお願いしている。今年度は地元の秋祭り見学を再開したり、近隣商店の主催した盆踊りにも参加した。	事業所周辺に民家が少ないこともあり地域との交流は少ない。食材購入等で近隣商店を利用しており、商店主催の盆踊りや堀野地区のお祭り、二戸市文化祭の見学に出掛けている。法人で看護学校生の実習を受入れ、事業所の見学交流を行っている。年4回発行の法人広報誌をお付き合いのある商店等に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの待機者がいる状態で、申込者に対して、自施設以外の地域サービス等の相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や行政の担当者、家族代表の方が変わったが、他のメンバーを決定できずに再開している。	地域密着型特別養護老人ホームである白梅の森を会場に対面による会議を再会している。会議は、事業所からの活動報告に対する確認が主となり、運営課題の提供や改善に向けた具体的提案までに至っていない。管理者は、定例の活動報告のほか、有識者等による情報提供や研修等にも取り組みたいとしている。家族代表や構成委員の選出に苦慮している。	委員の選任に当たっては、広く家族へ呼び掛けたり、日頃からお付き合いのある近隣商店、薬局、地域包括支援センターなどの参加により外部の視点を取り入れ、事業所運営への理解、協力が反映される運営推進会議となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域行政や、市町村の社会福祉協議会や地域包括支援センターに連絡を取り、在宅状況やGHの待機者の現状を共有し、入居等の協力をお願いしている。又、市の防災ラジオを活用している。	運営推進会議メンバーの、市担当課職員や広域行政事務組合とも要介護申請事務の代行や入退居情報の交換、運営推進会議の報告など、随時連絡をとっている。地域ケア会議には法人本部のケアマネジャーが参加している。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム おからぎ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、意識の継続を図っている。身体拘束に繋がるケースはないが、玄関の高所にセンサーを設置しエスケープに対応している。本人が穏やかに過ごすことが、身体拘束を行わない第一歩として、スピーチロックを念頭に置き、入居者との良好な関係と周辺症状の軽減に努めている。	法人として身体拘束廃止に係る指針を策定している。3か月毎の職員会議の際に委員会を開催し、年2回虐待やスピーチロックについての研修を行っている。夜間帯に玄関を施錠している。「ちょっと待ってください」の前に必ず理由を加えたうえで声を掛けることとするなど、スピーチロック防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で、研修を実施している。各職員が虐待防止の意識をもって、業務を遂行している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、独居生活が増えると思われ、知識として学習する必要がある。事業所内で研修を実施している。現在は事業所自体には、制度対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設見学をして頂いている。概要説明等についても十分な時間を取り、納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の家族の希望や、普段の入居者との何気ない会話から、食事等の希望を取り入れている。家族と連絡を取った時には、情報を共有しやすいように、記録用紙に印を付けている。日頃の様子を伝え、希望を確認している。	入居時に家族の希望を把握し、仏壇、テレビ、起床時間、嗜好品などの要望も把握している。また、コロナ禍の5類移行後、外出、外泊、墓参り等の希望に応えている。介護タクシー利用の手続きなどの照会にも対応している。利用者の希望は食べ物が多く、へっちょこ団子などの希望にはおやつとして提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、業務会議を行い、意見交換を行っている。急を要する時は、随時意見を聞き他スタッフに周知様子を見ている。又、職員アンケートや人事考課で意見を聞き、人事や運営等の参考にしていく。	年1回人事考課による管理者との面談の機会を設けているほか、法人として職員アンケートを実施し、異動希望等も把握している。職員会議や普段の業務を通じて寄せられる職員の意見、提案は、入居者の体調変化に応じたケアに関することが多い。事業所の設備、備品等の修繕、更新の意見・提案についても、随時対応している。	

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にアンケートや面談を行い、意向を確認している。人事考課を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームケアに必要な、認知症や虐待等の項目に対しての勉強会を開催している。外部研修には参加しなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症GH協会と、いわて地域密着サービス協会に加盟し、資料や機関誌を参考にしている。必要時には地域内のグループホームに電話連絡をし、相談に乗ってもらっている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定時から各情報を収集し、アセスメントを行い支援に繋げている。特に言葉使いに注意し、傾聴の姿勢を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き、安心してサービス利用を開始できるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時に、既往歴等から本人の状態をアセスメントし、サービスの検討を行っている。ケースにより、各関係機関と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を尊重した支援を心掛けている。本人の出来る事を探したり、行ったりして暮らしを共有できるようにしている。		

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が通院対応で来所の際には、近況を伝え支援を連携できるようにしている。報告や相談を行い、繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を再開したり、美容院に出かけている。お盆には、墓参りや自宅に戻った方がいる。又、在宅時に主催していた、裂き織教室に出かけ、生徒さんと交流した。	家族と一緒に通院後に外食したり、お盆のお墓参りに出掛けるなど、家族との繋がりが維持できている。桜や紅葉の時期には三戸方面が行きつけの場所となっている。美容院に出掛ける方もいるが、3か月に一度、理容師が事業所を訪問し、新しい利用者にも新たな馴染みの方となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の能力を把握しながら、出来る事は皆と一緒に出来るようにしている。入居者同士の支え合いを大切に、なるべく周囲との関りを持つようにしている。孤立しがちな方には、得意な事を行っていけるように職員が関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行えていない。今後の課題である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分から、希望や意向を言葉にする入居者は少ない。日々の生活の観察や会話の中から、小さな気づきを大切に、本人の思いに近づけるようにしている。	ほとんどの方が言葉による意思表示が可能である。入浴は職員と1対1になれる時間であり、食べ物や美容院での毛染め、家族との電話の希望等が話題になる。季節ごとの食べ物の話題を話しかけたりして、思いや意向の把握に努めている。新聞や市の広報などに目を通される方もいる。日常の変化や職員が気付いたことは、連絡ノート等に記載のうえで、引き継ぎ等で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活等について伺ったり、前担当ケアマネジャーから情報を収集している。その人の生活歴を参考に、必要に応じてケアプランを見直し、経過の把握に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動を観察しながら、記録をもとに職員間で共有し、経過の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間の良好な関係を基本として、本人の意向や生活状況をアセスメントし、ケアプランを実施している。各担当スタッフはケアプラン評価表を記入し、毎月の業務会議で報告してケアプラン作成の参考にしてしている。	入居に当たって入居前の担当ケアマネジャーと家族から入居前の状況を聴き取り、当座のプランを作成し3か月を目途に見直している。以後6か月を基本に見直している。毎月居室担当者がモニタリングを行い、日常の変化や気づきを全員で確認している。また、変化には、臨機に対応できるよう申し送り等で日常的に共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個別のチャートに24時間の流れで記録している。申し送りノートで支援内容を共有している。又、ヒヤリハット用紙を併せて活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向に沿った関りができるように、必要に応じた企画、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通院時に必要な時は、地元の介護タクシーを使用している。今年は地元の祭りを見学し、美容院の利用を再開している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関係を維持し、医療を受けられるように支援している。状態に応じた内容を報告し、指示をもらっている。希望がある場合には、近くの県立二戸病院に変更している。	全員が入居前からのかかりつけ医を受診しており、通院には原則家族が同行している。通院時は家族にメモを渡し医師に事業所での様子を情報提供している。家族が遠方のため職員が通院に同行している利用者については、通院後に状況をお知らせしている。県立二戸病院が協力医療機関となっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の通所介護施設の看護師に、入居者の既往歴や内服薬、主治医を伝え情報を共有している。急変時には、支持を仰ぐことが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	隣接する県立二戸病院と、協力関係にある。入退院時にはカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた指針を作成している。入居時に、指針や状態変化の意向確認書を、本人や家族に説明している。事業所の勉強会で、終末期やターミナルケアの研修を取り入れている。	重度化対応指針を、入居時に利用者、家族に説明し、意向を確認している。一般浴槽での入浴、食事自力摂取が難しくなり、要介護3となった段階で特養への入所申請を助言し相談対応もしている。状態の急変時には、救急搬送することで家族も了解している。年1回、終末期、ターミナルケアについて職員研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各種急変時(発熱、嘔吐、痙攣、転倒、吐血、骨折、意識障害)のマニュアルを作成している。隣接する通所介護施設の看護師に随時、相談、指導を受ける体制にある。定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の昼夜を想定した、避難訓練を行っている。夜間訓練では、消防署の助言を取り入れた訓練を行っている。食材、反射式ストーブ、発電機、災害時備品等を備蓄している。地域に民家が少なく、協力体制は築けていない。前回の外部評価時の助言があり、夜間避難に備え、ヘットライトを準備した。	事業所はハザードマップの対象地域に含まれていない。年2回、デイサービスセンターと合同で避難訓練を実施している。消防署には年1回の立ち会いをお願いしている。消防が5分以内で到着できる位置にあり、夜間想定訓練の際に、入居者は事業所玄関に避難、待機するよう助言を得ている。災害時の備蓄として、食料品1週間程度、反射式ストーブ、カセットガス式発電機を備えている。管理者は、非常連絡網に沿った通報連絡、参集訓練を実施してはと考えている。	

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内で個人情報、プライバシーの研修を実施している。個人の姿勢を大切に、入居者の尊厳を傷つけないようにし、各自に合った声掛けを心掛けている。	入居者一人一人に応じて、話を否定せず、心穏やかな姿勢でケアにあたることを基本としている。事務職の経験のある方で、好んで計算ドリルに取り組む方もいる。個人情報、プライバシーに関し、管理者を講師として、情報漏洩等についての研修を行っている。入浴、排泄場面で異性介助を希望しない方には同性介助に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを達成できるように、話しやすい環境や雰囲気作りに努めている。又、自己決定ができるように、選択肢を増やすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、入居者がしたいように寄り添いながら支援している。現在は食器拭きや洗濯たたみ、掃き掃除、モップ掛け、新聞整理等の役割を持っていただき、個々のペースに合わせている。数名の入居者は、スタッフと一緒にリネン交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、理髪店の訪問散髪を依頼している。数名の入居者は、自分でブラッシングを行っている。希望者には、近くの美容室に出かけ、カットや白髪染めを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の移り変わりや日々の会話の中で、入居者の嗜好を把握し、季節を感じられるメニューを取り入れている。一部の食器洗いや食器拭きは、入居者中心に行っている。	日常の会話から献立やおやつ希望を把握し、ホットケーキ、串もちなどの手作りおやつを取り入れている。調理は難しいが下ごしらえ、食器洗い、拭き方などを手伝っている。おせち料理、ちらし寿司、鰻、クリスマスケーキ、年越しそばなど、行事に合わせた料理も提供している。利用者が大好きなせんべい汁は毎週1回の定番となっており、ドライブで出掛けの際の串もちは皆さんが馴染みで好まれている。家族との外出のついでに外食を楽しまれる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を把握しながら、排泄状況や体重管理を行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の為、食後の声掛けやケアを行っている。就寝前の口腔ケアを入念に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には布パンツ、リハビリパンツとパットを使用している。トイレで排泄する事を意識して、本人の排泄パターンに応じたタイミングで、声掛けや介助を行っている。	尿意、便意を感じて自発的にトイレに行く方6人、排泄チェック表に沿って誘導する方が3人となっており、布パンツやリハビリパンツを使用している。便秘がちの方もおり、寒天ゼリーなどで水分摂取に配慮し、ホール内の歩行や1日1回、テレビ体操で体を動かすことにも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分摂取量、活動性を意識した支援を行っている。ヨーグルト等の乳製品や寒天ゼリーを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回、13:30~16:00頃に入浴している。月ごとに季節に応じた花や、植物を浴槽に入れて入浴を楽しんでいる。又、入浴時の一人対一人の会話も大切にしている。	入浴は月曜から土曜で、利用者は週2回午後の時間帯に入浴している。季節の花、野菜(大根、生姜)、果物などを湯船に浮かべるなどして、入浴を喜んでもらう雰囲気づくりに努めている。職員と利用者が1対1になる入浴は利用者がリラックスし、様々な話が出る貴重な時間となっている。車いすの方は職員2人で介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	余暇時間は、本人の生活リズムや体調に応じて、居室やホール内のソファ席で休んでいただくようにしている。夜間は、本人の就寝時間に合わせるようにしている。ホールや居室の空調を調整し、入眠しやすい環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を管理しながら、日々の状態観察と支援の注意点に留意しながらケアを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好み、やりたい事等を尊重し、物品や場所の提供を行っている。音楽やテレビを楽しんだり、食器洗い、食器拭き、洗濯たみ、おしぼり巻き等の家事活動を分担している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場の散歩や、季節を楽しむドライブに出かけている。通院は、家族や親戚の方と食事を済ませてくる入居者もいる。	隣接する二戸病院敷地の庭園や事業所周辺の散歩を取り入れて気分転換をしている。桜の花見だけでなく、りんご、さくらんぼなど季節ごとの花見に少人数でドライブを兼ね外出している。利用者と一緒に食材の買い物にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に対応している。1名の方は、携帯電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な広さを取り、思い出の音楽や好みの映像を流し、ゆったりと過ごせるようにしている。季節の花や飾りつけを行い、季節感を演出するようにしている。窓越しに見えてくる季節の風景に、会話を広げている。それぞれの会話や調理の音を、生活の音と捉えている。	食堂、ホールを囲む形で居室が配置されており、日中は窓から心地よい明かりが差し込んでいます。3台の食卓に3人ずつゆったり座れるようになっています。テレビの前には大きめのソファが2つあり、テレビを観たりおしゃべりをして、ほとんどの利用者が日中ホールでのんびり過ごしている。トイレ2カ所、浴室には床暖房が設置されている。壁面には入居者作成の千羽鶴や書初めの書が、季節を感じさせる飾りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にあるテレビ前のソファ席と、食堂のテーブル席で気の合った入居者が、それぞれの場所で過ごしている。玄関側のソファ席で一人で過ごしたり、テラスに椅子を置き、そこで花や景色を眺めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた衣装ケースや、食器等を持って来ていただき、落ち着いた環境になるように支援している。居室にテレビや仏壇や位牌、故人の写真を置いている方もいる。	ベッド、エアコン、洗面台、加湿器、クローゼットが備え付けられている。チェストや仏壇、位牌、テレビ、家族の写真などを持ち込み、本人が落ち着ける居室に配慮している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーになっており、移動に支障がないようにしている。トイレは三箇所に設置しており、安心できる環境にある。トイレを使用していない時は、ドアを半分程開け、使用していない事が分かるようにしている。		